

JR九州の多角化戦略

～ 新幹線から農業まで ～

2011年3月12日、福岡県の博多駅から鹿児島県の鹿児島中央駅間が、九州新幹線として全線開通しました。これによって博多駅－鹿児島中央駅間が最速で1時間19分で結ばれました。

JR九州は、鉄道事業をすべての事業の「インキュベーター（卵のふ化器）」として、多角化戦略をすすめてきました。現在では流通事業や外食事業、不動産事業など直営事業の他にグループ会社が34社もあります。

鉄道以外のおもな事業として、

- ◆船舶…博多港と韓国の釜山港の間に高速船「ビートル」を1991年に運行開始し、現在までにのべ400万人が利用し、日本最大の国際航路となりました。
- ◆外食事業…ジェイアール九州フードサービスを1990年に設立し、うどん・ラーメンなどの麺事業、レストラン・軽食・弁当などの専門店事業、さらに「居食屋」という新しい分野の事業をつくり東京にも進出し、73店舗を運営しています。
- ◆ドラッグストア…2007年から、ドラッグイレブンホールディングスを子会社とし、ドラッグストア事業に進出し、駅構内などへの出店を進めています。
- ◆分譲マンション事業…1989年から事業を展開し、2009年から3年連続で福岡県内での年間販売戸数第1位となっています。
- ◆商業施設…2011年3月、福岡県の博多駅に、商業施設としては全国最大規模の駅ビル「JR博多シティ」をオープンしました。九州初出店のデパート「博多阪急」や約230店の専門店ゾーン「アミュプラザ博多」、日本最大級のレストランゾーンなどを展開しています。
- ◆農業…2010年に農業生産法人を設立し、耕作放棄地を活用し、大分県で農業を行って、ニラを生産しています。大分県はニラの名産地で、比較的栽培が容易で、定期的な収入が見込めることから始めました。さらには外食事業への食材の提供も考えています。

このようにJRが多角化経営を進めた理由は、会社の歴史と関連があります。JRはもともと、日本国有鉄道という公社組織で、国が鉄道事業を行っていました。しかし1987年の国鉄分割民営化にともなって、JRが発足しました。九州エリアでは、マイカーや高速バスとの競争もあり、鉄道事業の収益だけに依存すると人口減少社会では経営が厳しくなるため、鉄道事業の赤字を新規事業の開拓によって補う必要がありました。

現在では、鉄道以外の事業がグループ全体の収益の6割を占めるまでになりました。